

エコトピア



第6号

contents

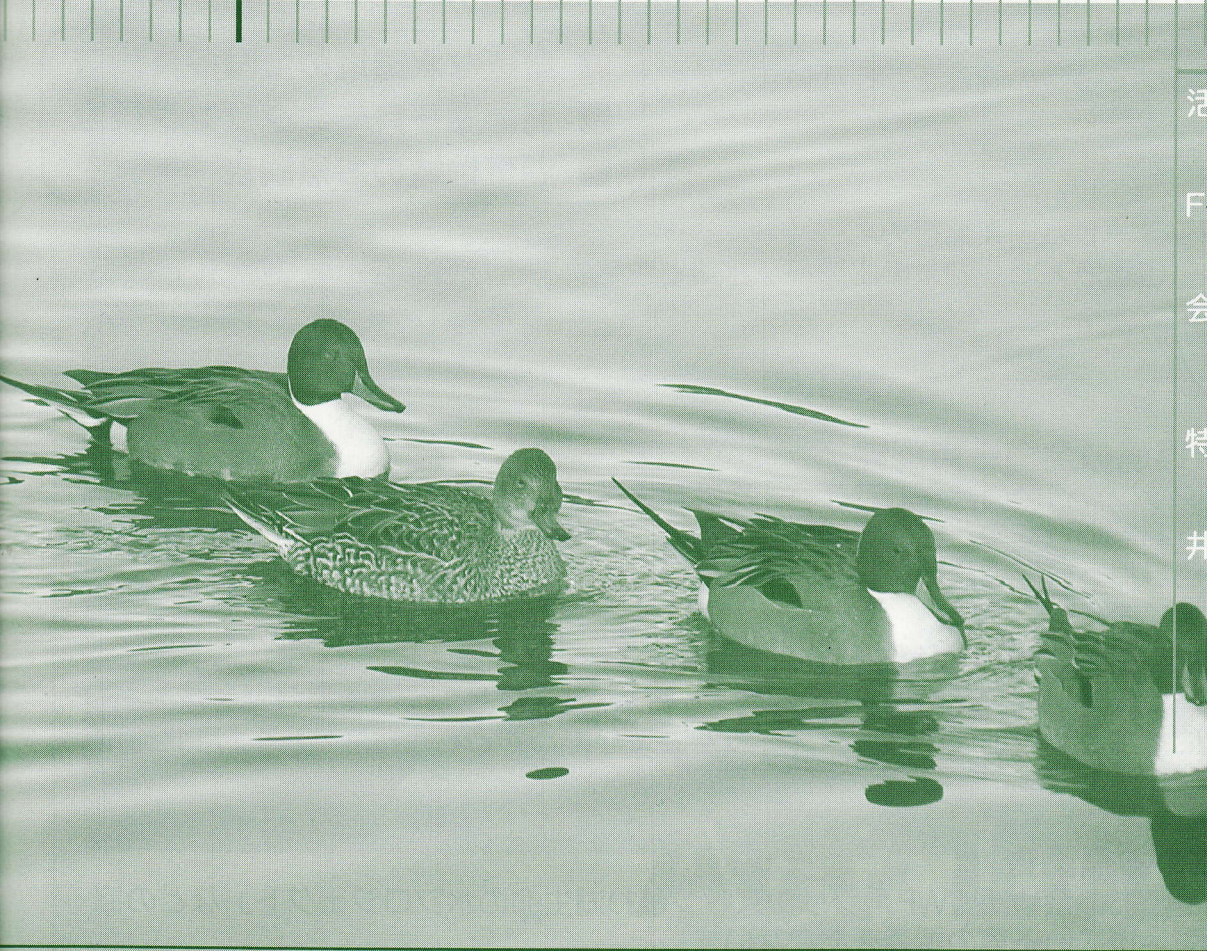
活動のご報告……………2
湖東地域の水環境

F-NEWS……………4
会員交流事業報告

会員のすがお……………5
彦根市PTA連絡協議会
エコグループ・アイ

特集……………6
水を受け継ぐ

井戸端掲示板……………8



周りの自然をもっと身近に

湖東地域の水環境

環境フォーラム湖東が平成17年度に行なってきた水環境の調査の経緯を報告します。

環境フォーラム湖東では、環境の指標となる生き物の調査を子どもからお年寄りまでみんなが参加して取り組めるように企画し、その結果を地図にまとめて情報発信する取り組みをしています。昨年のセミの抜け殻調査に続き、平成17年度は湖東地域の琵琶湖岸、河川、水路などの水質調査や魚の調査をおこないました。

今回は大きく分けて3つの調査をおこないました。

- 身近な水環境の全国一斉調査
- 琵琶湖一斉モニタリング調査
- 湖東地域のお魚調査

詳しくは環境フォーラム湖東発行の「調査研究事業報告書2005 湖東の水環境－水質と生き物調査から」をご覧ください。

調査の概要

■ 身近な水環境の全国一斉調査

全国水環境マップ実行委員会がおこなう「身近な水環境全国一斉調査」に参加。調査に協力していただける参加者をつどい、事前にどのように調査をおこなうのかという講習会を開催した後、各自6月5日に調査をおこないました。

■ 琵琶湖一斉モニタリング調査

(財)淡海環境保全財団・琵琶湖流域ネットワーク委員会がおこなう「琵琶湖一斉モニタリング調査」に参加。湖東地域は環境フォーラム湖東が担当することとなり、11月12日に彦根市内の琵琶湖岸17km、34地点で調査をおこないました。

■ 湖東地域のお魚調査

琵琶湖博物館うおの会や「WWF・プリチストンびわ湖生命の水プロジェクト」などの協力を得て、湖東地域にいる魚の調査をおこないました。

調査の目的

■ 身近な水環境の全国一斉調査

湖東3大河川の流域別の特徴を明確にするとともに、環境諸団体や小学校に呼びかけて、参加者に身の回りの環境に関心を持ってもらう。

■ 琵琶湖一斉モニタリング調査

琵琶湖岸一帯の水質や動植物の状況などを県下一斉に観察・調査する。そして、得られたデータを「琵琶湖水質マップ」にまとめ、琵琶湖の環境の現状を把握し、今後の環境保全活動に役立てる。

■ 湖東地域のお魚調査

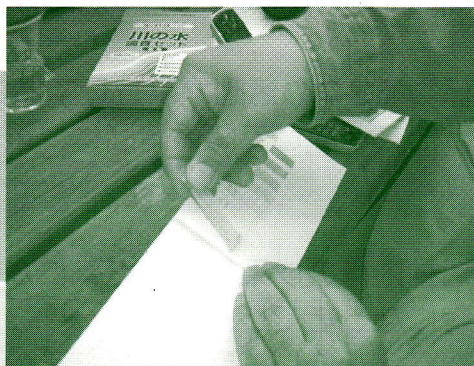
魚の生息状況のデータを得ることでその地域の水環境を知る。



お魚調査のテキスト
(琵琶湖博物館うおの会提供)



身近な水環境の全国一斉調査



琵琶湖一斉モニタリング調査



湖東地域のお魚調査

調査項目

■ 身近な水環境の全国一斉調査

気温・水温・COD

※湖東地域内の河川の水質を調査

■ 琵琶湖一斉モニタリング調査

気温・水温・COD・アンモニウム・亜硝酸・硝酸・リン酸・ごみの状況・植物・魚類・鳥類・人の活動・護岸の状況など

※湖東地域内の湖岸の水質・環境を調査

■ 湖東地域のお魚調査

魚類

※湖東地域内の河川に生息する魚を調査

担当者からの一言

環境フォーラム湖東の調査活動班では、昨年のセミの抜け殻調査に続き今年も身近な生きものの姿を調べてみようというテーマを探しておりました。

6月に身近な水環境の全国一斉調査があることを知り、それに合わせた事前講習と参加者の募集に努めました。

ここで私たち調査グループは水質調査だけでは本来の生きものの調査に直接結びつかないので本調査に関連したものをと探していたところ、これもちょうど、琵琶湖博物館が進める県下一斉「お魚調べ」が本年おこなわれる予定でした。

WWF ジャパンの後援もありプロジェクトを組まれたサポート体制や調査に必要な資料は参加者に何よりの教材となり意欲を与えてくれました。

5月21日の事前講習会、6月5日の全国一斉水環境調査と両日とも炎天下、多くの方の参加があり、改めて環境問題に熱心な姿を拝見したわけです。

お魚調査も含めて調査結果を報告書として作成し参加者の皆さんや関係機関に配布の予定です。水質と身の回りの魚たちの姿を比較してご覧いただければ幸いです。

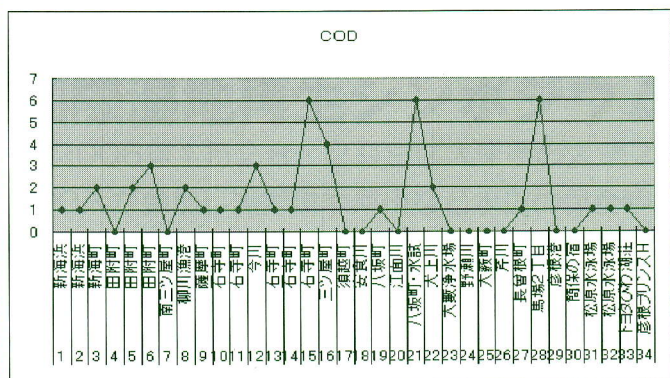


今年度は偶然にも水環境に係わる3つの活動が平行しておこなえたこと、事業そのものに大きなサポート体制があったことなどで関係諸団体、後援をいただいた事業所、企業の皆さんに厚くお礼申し上げます。

私たち主催者はどうしても活動内容の成果や数値を気にかけてますが、参加の皆さんにとって果たして意義がある内容になったでしょうか。

私たちは以前から数多くの観察会を催してきました。その中で子ども、大人を含めて一番感銘し驚きの声をあげるのは個人の体験であります。水質を調べるのに科学を利用した水質調査キットがあります。反応の出た色で水質を判断しよう。確かに正確で簡単かもしれません。

しかし今回、何度か行われた「お魚調べ」のように実際その場所の魚をつかまえてみて「この魚が住んでいるから水はきれいなのだ」とわかる方が参加者にとっては体験を通じた早い診断で印象深いものになると思えるのですが…。 (西澤)



詳しい結果は調査研究事業報告書をご覧ください

F-NEWS

彦根市PTA連絡協議会と合同開催した交流会の様子を紹介いたします。

研修交流事業

体験型環境学習

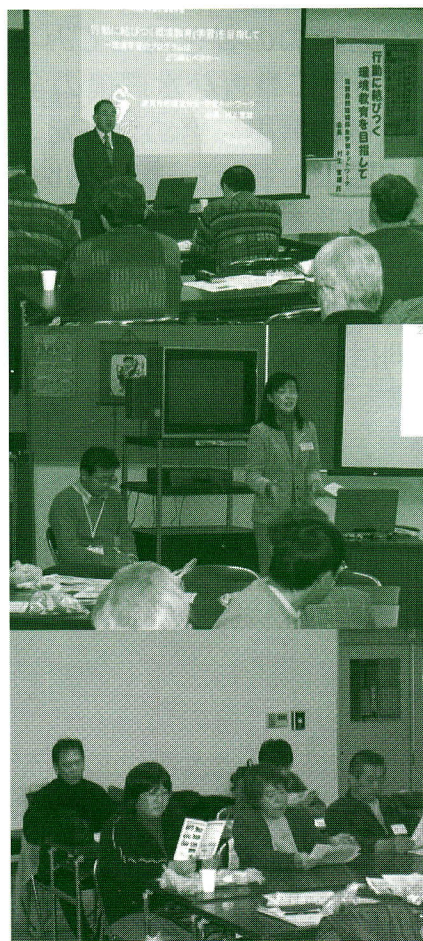
環境教育研修交流事業を平成17年12月10日(土)に荒神山少年自然の家において開催いたしました。本年度2回目となる体験型学習会、第1部は滋賀自然環境保全学習ネットワーク会長 村上宣雄氏に話題提供をしていただきました。

主なテーマ

- ・ 環境教育の流れ
- ・ 環境教育の指導原理
- ・ 環境教育が行動に結びつかない理由
- ・ 環境教育が行動に結びつくために！

現在の環境教育は、身近な環境問題に積極的に立ち向かう人の育成に結びついていないのが現状だそうです。今後は、行政や民間団体とパートナーシップの関係を維持し、ネットワークをつくるのが大切になるとのこと。行政サイドのみに任せず、国民が主役で活動し、県・市町村・振興局との連携が大切になってきます。

第2部は段ボールアートの制作に取り組みました。今回挑戦したのは、段ボールからの『靴の置物』づくり。初めての体験でしたが、皆、夢中になり予定の時間をオーバーして全員完成することができました。(西尾)

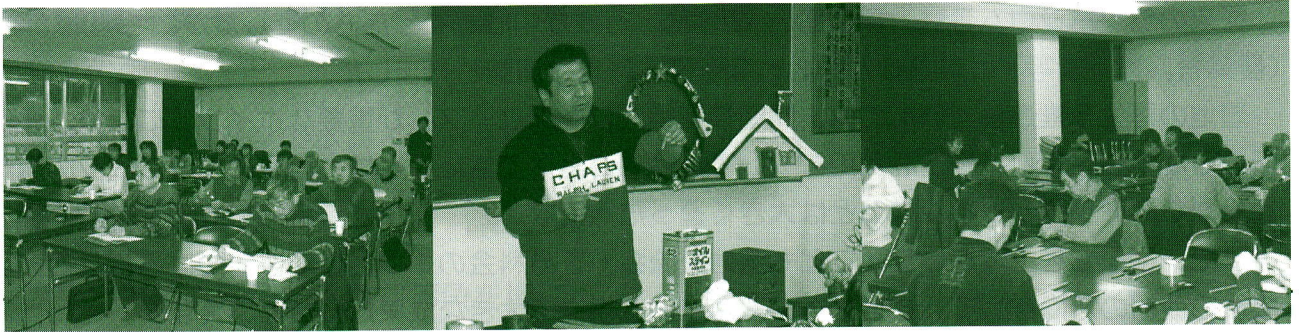


彦根市PTA連絡協議会

彦根市PTA連絡協議会では、日頃、子どもたちが学校現場やいろんな場で環境教育に取り組んでいます。私たち保護者もこれからは環境教育に関心を持ち、将来の子どもたちのためにいい環境を残せるよう日々環境教育に関心をもち取り組んでいきたいと思ひます。

平成17年度は、『水環境』に焦点をしぼり、多賀町立博物館学芸員 金尾滋史氏を講師に年間3回の勉強会を開催。川の生き物、田んぼの生き物、琵琶湖の現状等について学びました。

平成17年12月10日(土) 荒神山少年自然の家で、大人のための環境教育研修会と題して、小林圭介氏(滋賀県立大学名誉教授)と金尾滋史氏(多賀町立博物館学芸員)の講演会をしました。当日は、午後は環境フォーラム湖東と合同開催で有意義な一日となりました。



環境団体エコグループ・アイ報告書

実施日	名称	場所	人数	備考
6月1日	高宮小学校PTA	高宮小学校	60名(父兄同伴)	ろうそく体験学習
8月21日	納涼祭	後三条自治会	70名(父兄同伴)	ろうそく体験学習
9月3日	環境フォーラム湖東	県立大学	10名(父兄同伴)	ろうそく体験学習
11月3日	環境に優しい日	神照運動公園	70名(父兄同伴)	ろうそく体験学習
12月10日	若葉小学校PTA	若葉小学校	60名(父兄同伴)	ろうそく体験学習
3月4日	春のつどい	城西小学校	予定	ろうそく体験学習

エコグループ・アイ事務局

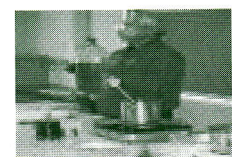
☆彡 会員募集中 (随時受け付け中) 年間会費 4,000円(入会費無し)

ろうそく 作り出前講座で自分の輪を広げて見ませんか?

☆彡 連絡先 林 俊雄代表 携帯電話 090-3 929-5720
望月 伸弘事務局 携帯電話 090-7 490-5189



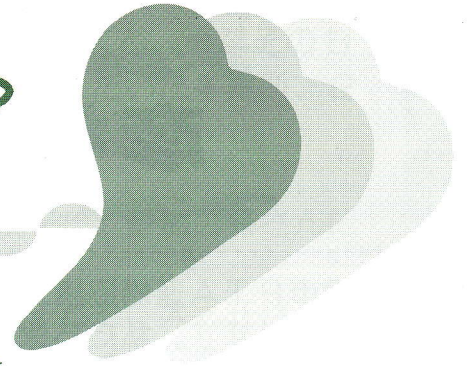
高宮小学校



若葉小学校

水を受け継ぐ

水は人間だけではなく、すべての生き物の命の源です。
みんなが安心して飲めるきれいな水を未来へ引き継ぐためには、
今まで水を大切に活用されてきた人々の気持ちも一緒にきちんと受け継ぐことが重要です。



日本一大きな湖を持つ滋賀県。日本だけでなく世界の動きに注目してみましよう。

国際湿地再生シンポジウム

2006年1月28・29日に大津市の大津プリンスホテルで開催され、世界20カ国から約800人が参加し湖岸域や河川など水辺の保全や再生について議論しました。

従来のシンポジウム等は、研究者、専門家、行政が中心となったものでしたが、今回は、住民（農業者、漁業者等）、NGOが中心となって、運営、議論されました。

湿地の再生を推進していくには、賢明な利用（ワイズユース）が重要なポイントになり、住民やNGOが中心となり、賢明な利用について具体的に議論できたことは、再生のテクニックの議論になりがちな従来のシンポジウムとは大きく違った点です。

また、子どもを主体とした「こども湿地交流会」を分科会の1つとして位置づけられたことは、今後の取組の方向として、こどもへの教育という視点で大きな成果だったといえます。

そして、湿地再生は人間が自然との健全な関係を築いていく先導的な役割を担うとして、「湿地の多面的な機能や価値を明らかにする活動と研究の推進」や「産業振興を図るための賢明な湿地利用の促進」、「再生を推し進める技術開発や法制度の改善」など、今後の湿地再生に向けた項目の取り組みを掲げた「湿地再生琵琶湖宣言」が採択されました。

世界湖沼会議

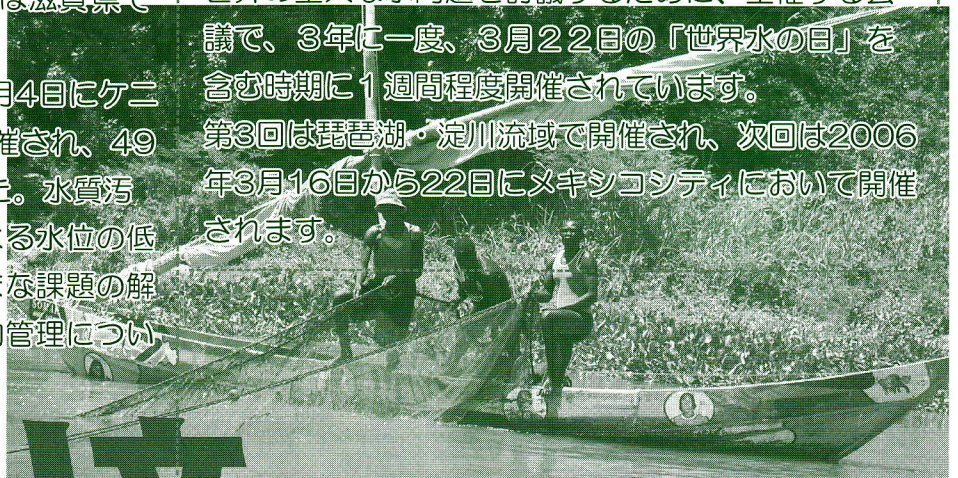
世界湖沼会議とは、湖沼に関するさまざまな環境問題について、研究者や行政、市民などが集まり、問題解決に向けた取り組みを考えていこうとする会議です。第1回（1984）と第9回（2001）は滋賀県で開催されました。

平成17年10月31日から11月4日にケニアのナイロビで第11回目が開催され、49カ国、約700人が集まりました。水質汚濁、土砂流入、地下水採取による水位の低下、外来種の繁殖などさまざまな課題の解決を目指し、湖沼流域の持続的管理について話し合われました。

世界水フォーラム

持続可能な開発には、「水資源管理」が必要不可欠との考えから、地球規模で深刻化しつつある水資源問題の解決策を追求するための水政策のシンクタンクWorld Water Council（WWC：世界水会議）が世界の重大な水問題を討議するために、主催する会議で、3年に一度、3月22日の「世界水の日」を含む時期に1週間程度開催されています。

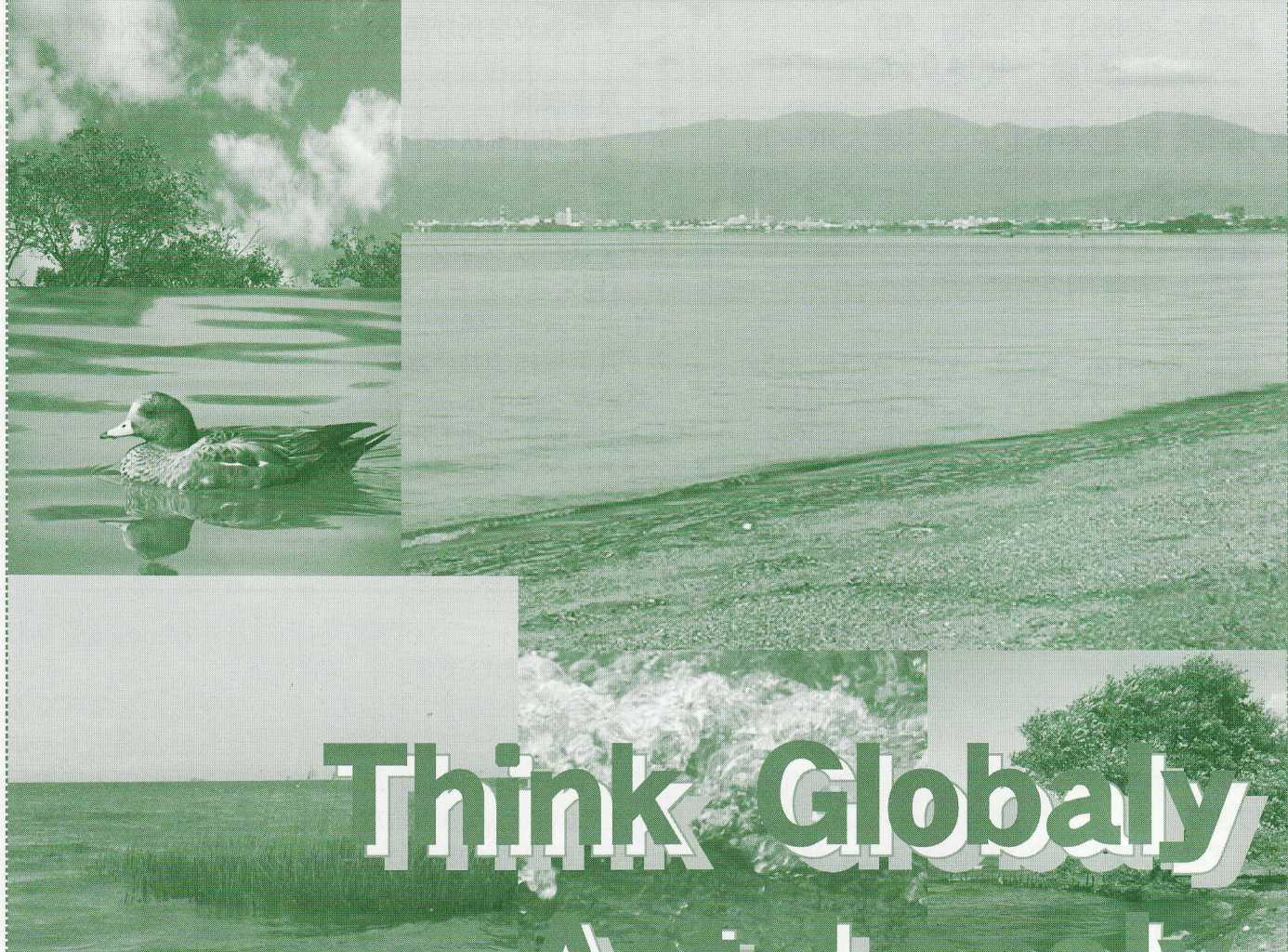
第3回は琵琶湖・淀川流域で開催され、次回は2006年3月16日から22日にメキシコシティにおいて開催されます。



ヴィクトリア湖

水環境

琵琶湖→世界



Think Globally Act Locally

よく使われている言葉ですが、地球のこと、世界の動きを見据えて、身近なところから活動をしていく。そのことが本当に大切だと思います。

いくら身近な環境がよくなっても、地球規模で汚染が進んでいたらいずれ身近な環境もダメになってしまいます。逆に、地球環境がよくなっても、自分の住むところの環境が汚染されていたら快適な生活は送れません。

まずは身近なところから、過去の人々から水を受け継ぎ、そして、よりよい状態で次世代に引き継ぐ方法を確認していくことが重要です。

そのためには自分自身の目、鼻、口などの感覚を使って、今の水の状態を感じとることが必要です。頭で得た知識よりも体で感じた感性のほうが、行動へと突き進むより大きな原動力となります。

水環境を身近に感じ、人間だけではなく、魚にも植物にも水鳥にもよい環境づくりを目指していきましょう。

地下水シンポジウム

未来につなぐ水

飲み水の源泉

愛知川の地下水を考えてみませんか？

日時：2006年4月23日（日）
午後1時～4時40分

場所：東近江市愛東公民館大ホール
東近江市下中野町（東近江市愛東支所隣）

主催：人と自然を考える会
宇曾川水系を見守る会

後援：東近江市、愛荘町、愛知郡広域行政組合、
愛知ライオンズクラブ、能登川ロータリークラブ
八日市ロータリークラブ、八日市南ロータリーク
ラブ、東近江ロータリークラブ

シンポジウムの内容

【第一部】

趣旨説明

「今、なぜ、愛知川の地下水なのか？」

京都精華大学・琵琶湖博物館 嘉田由紀子 氏

特別講演

「今森光彦氏が語る『愛知川扇状地の水の魅力』」

自然写真家 今森光彦 氏

基調講演

「愛知川扇状地の地下水の流れの仕組み」

京都大学教授 三野徹 氏

【第二部】

ディスカッション

「見えない水を見てみよう」

1.地下水と生活文化

井戸探検や井戸水の利用について

2.農業と地下水

3.滋賀県下の地下水汚染事例とその対策

まとめディスカッション

■ 新規会員募集中

環境フォーラム湖東では新規会員を募集して
います。

すでに環境に関する活動をされている方や、
ちょっと勉強してみたいという方、企業・市民
団体のみなさんまで、どなたでも参加してい
ただけます。

まずはお気軽に、下記事務局までご連絡く
ださい。環境フォーラム湖東に関する詳しい情報
をご連絡いたします。

■ 会員の皆さんへ

環境フォーラム湖東ではみなさんからの情報をお
待ちしております。

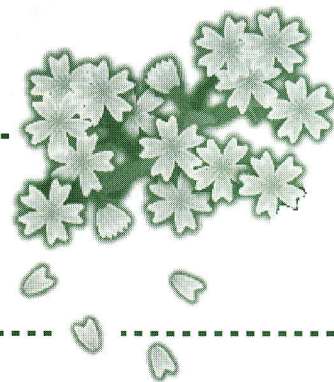
イベント情報や普段の活動の様子などを情報交流
誌「エコトピア」または、「フォーラム通信」、ホ
ームページに掲載いたしますので、「他の人にも伝
えたい」という情報がございましたら、下記事務局
までご連絡ください。

■ 平成18年度環境フォーラム湖東総会のお知らせ

日時：平成18年5月13日（土） 13：20～

場所：ひこね燦ぱれす会議室

みなさまのご来場をお待ちしています。



環境フォーラム湖東 事務局

- 〒522-0071
- 彦根市元町4-1 湖東地域振興局環境課内
- TEL 0749-27-2255
- FAX 0749-27-1688
- URL <http://www15.ocn.ne.jp/~foramkot/>
- E-mail dc43@pref.shiga.lg.jp

編集後記

1年間かけておこなった水環境の調査。身近な環
境を体で感じるのが重要だと思います。「調査
研究事業報告書2005」を発行していますので、詳
しくはこちらをご覧ください。（山田）

- 発行 環境フォーラム湖東
- 編集責任 環境フォーラム湖東広報部会
- 平成18年3月発行